

## 横浜市金沢消防署及び金沢消防団と 関東学院大学との消防応援協定の創設

横浜市金沢消防署

### 1 はじめに

金沢消防署は、18行政区がある政令指定都市の横浜市の南端に位置し、東は東京湾に面し、南は横須賀市、逗子市、鎌倉市に接しています。人口は市内で8番目の約21万人（市全体約365万人）、面積は市内で6番目の広さの30.8km<sup>2</sup>（市の面積は約435km<sup>2</sup>）です。周囲は山と海に囲まれ、内陸部には横浜市南部地域唯一の大規模な緑地圏が形成され、臨海部には横浜市としても貴重な海辺の資源を有しています。また、鎌倉文化を現代に伝える県立金沢文庫、称名寺等の名所・旧跡が数多く残っています。また、今回、応援協定を締結した関東学院大学と横浜市立大学の二大学があり、文教施設の環境も整っています。

本年、横浜市は、安政の五カ国条約に基づく開港から150周年を迎え「開国・開港博Y150」と銘打ったテーマイベントが計画されています。みなさん、是非、横浜を訪れてください。

金沢消防署は、署長以下職員数192名がおり、庶務課、予防課、警備第一及び第二課で組織されています。その他に6消防出張所があります。

消防車両等の配置状況は、消防車両16台（指揮車1台、普通消防車・水槽車5台、特殊災害対策車1台、救助工作車1台、はしご消防車1台、ミニ消防車3台、大型化学消防車1台、非常用消防車3台）、救急車両5台（救急隊4台、非常用救急車1台）、消防機動二輪車7台（排気量220cc～225cc）、及び広報車等5台の計33台を所有しています。

### 2 金沢消防団

金沢消防団は、団長以下現員534名で、1団本部、8個分団で組織されています。（平成21年1月現在）積載車等の配置状況は、積載車33台、可搬式ポンプ47台、器具置場が32箇所あります。

当署の地震対策は横浜市防災計画「震災対策編」安全管理局細部計画に基づく「震災対策金沢地区本部計画」により対応することとなっております。しかし、阪神・淡路大震災の未曾有の被害状況からも、大規模地震発生時には、想定を超える被害の発生が予想されます。

ここで、阪神・淡路大震災の被害状況を確認してみましょう。

死者・行方不明者6,437人、負傷者43,792人、焼損棟数7,574棟です。

これだけの被害が発生した場合、我々、消防職・団員、行政職員だけでは、全ての災害に対応することは困難で、絶対的にマンパワーが必要となります。

### 3 消防応援協定の創設の経緯

当区には、前述のとおり、関東学院大学があります。

そこで、大学側に大規模地震が発生した場合、被災者救出等の災害応急活動に運動部の学生さんの力を貸していただく、という応援協定の締結について、相談したところ、「学生もお世話になっている地域に、少しでも貢献をしなければならない。」と快く応じてくれました。中でも、運動部の学生さん



は、日ごろから厳しい練習を通して、応急活動に必要な統率力、団結力、体力等を鍛えています。

区内には全国大学選手権で度々優勝しているラグビー部、神奈川リーグで優勝の常連校である硬式野球部、また、箱根駅伝の出場を目指している陸上競技部の合宿所があります。ラグビー部員が約150人、硬式野球部員約55人、陸上競技部員が約40人で計約245人の部員がいざというときにマンパワーを発揮する金沢区民として期待できるのです。

## 4 日頃の活動状況

活動の内容は、あくまでも自分たちの身を守っていただくことが第一で、自分たちの身の安全が確保された後に、合宿所近くの消防団器具置き場に駆けつけていただき、消防職員及び団員と連携を図り、可能な範囲で消火活動の補助、負傷者等に対する応急救護活動を行っていただく、という内容です。

協定は、第1条の「目的」から第9条の「覚書の保管」で成り立っています。

因みに、第1条目的、第2条消防応援協力の内容、第3条消防応援協力の要請、第4条消防応援協力の実施、第5条消防応援協力活動、第6条活動中の負傷等、第7条疑義の決定、第8条覚書の友好期限、第9条覚書の保管の条文となっています。

大学の運動部とこのような協定を締結するのは、本市では初めての取り組みです。



消防職員による救命講習の様子①  
(ラグビー部)

応急活動の中心となる救助・救出活動に必要な知識、技術を修得していただくため心肺蘇生法、AEDの取り扱い方等普通救命講習を行いました。毎年の新入部員にも、普通救命講習を実施し、実のある応援協定の継続を確保しています。また、応急活動時の安全を確保するためヘルメットを配備しました。

救命講習等の講義での運動部員の皆さんは真剣で、熱意が感じられ、その迫力に「いざという時」の頼もしさを感じました。

## 5 今後の取り組み

今後は、普通救命講習の知識・技術に加え、災害現場での活動に必要となるロープ結索等の技術を加え活動内容の幅を広げるとともに、安全管理技術の向上を図っていきます。また、運動部の試合、合宿等活動の都合もありますが、消防職・団員と学生さんが、もっと身近に顔を合わせる機会をつくり、更に、連携の強化を図りたいと考えています。

応援協定の締結日  
【硬式野球部】  
平成18年6月27日  
【ラグビー部】  
平成19年12月2日  
【陸上競技部】  
平成19年2月22日



講習に耳を傾けている様子  
(硬式野球部)



消防職員による救命講習の様子②  
(陸上競技部)